

2022年度 調査結果（2021年4月発行）

海外留学生のキャリア意識と就職活動状況

新型コロナウイルス感染拡大により、日本への一時帰国や授業のオンライン化など、海外留学にも大きな影響が出ている。ディスコでは、様々な制約を受けながらも留学を継続中の正規留学生や留学を終えた交換・派遣留学生等を対象に、職業観や就職活動に関する調査を実施した。比較可能なものに関しては、国内学生（キャリアス就活・学生モニター）の調査結果を引用しながら、その特徴を分析したい。

【主な調査内容】

1. 現在の英語力	P 2
2. 就職したい理由	P 2
3. 海外での勤務希望と海外で働きたい理由	P 3
4. 志望業界	P 4
5. 志望職種	P 5
6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点	P 6
7. 新卒1年目の最低希望年収	P 7
8. ベンチャー企業への関心	P 7
9. 就職活動の情報源	P 8
10. 企業研究をする上で知りたい情報	P 8
11. 企業に評価してもらいたいこと	P 9
12. インターンシップの経験	P 10
13. 動画選考・WEB面接の受験状況	P 10
14. 留学をした感想	P 11
【参考】留学費用	P 12

《調査概要》

調査対象：CFN (www.careerforum.net) に登録している【日本人留学生】のうち、卒業時期が2020年5月以降の者 14,717人
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2021年2月19日～3月10日

回答者の属性 単位：人

留学形態	全体	文系	理系	卒業(予定)年月	全体	留学先地域・国	全体
正規留学	277	184	93	～2021年3月	227	北米	246
交換・派遣留学	211	189	22	～2022年3月	198	英国	72
語学留学	30	27	3	2022年4月～	104	その他ヨーロッパ	115
その他	11	10	1	合計	529	オセアニア	22
合計	529	410	119			アジア	63
						その他	11
						合計	529

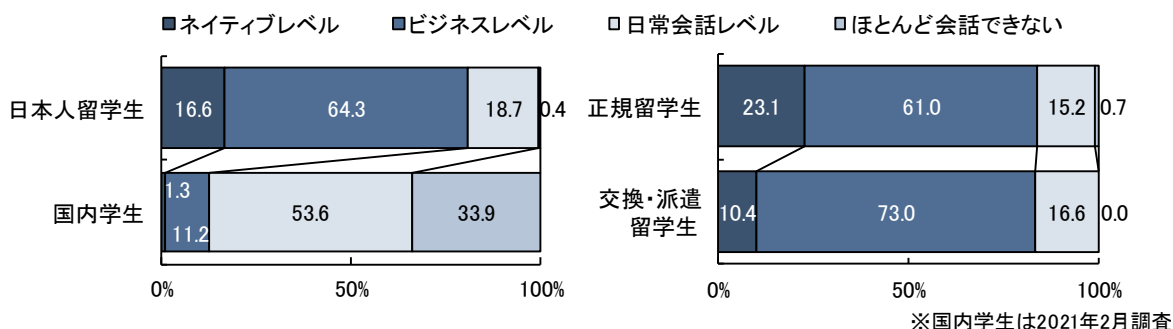
※国内学生の調査結果は「キャリアス就活 学生モニター調査」より

1. 現在の英語力

まず、現在の英語力について尋ねた。「ネイティブレベル」が 16.6%、「ビジネスレベル」が 64.3%と、ビジネスで英語を使うことができるとの回答が 8 割に上る（計 80.9%）。国内の大学・大学院で学ぶ学生（以下、国内学生）ではビジネスレベル以上は 1 割強（計 12.5%）にとどまり、留学生の英語力は国内学生と比べ圧倒的に高い。

留学形態別に見ると、ビジネスレベル以上は、正規留学生で計 84.1%、交換・派遣留学生で計 83.4%と、いずれも 8 割を超えており、共通して英語力が高いことがわかる。

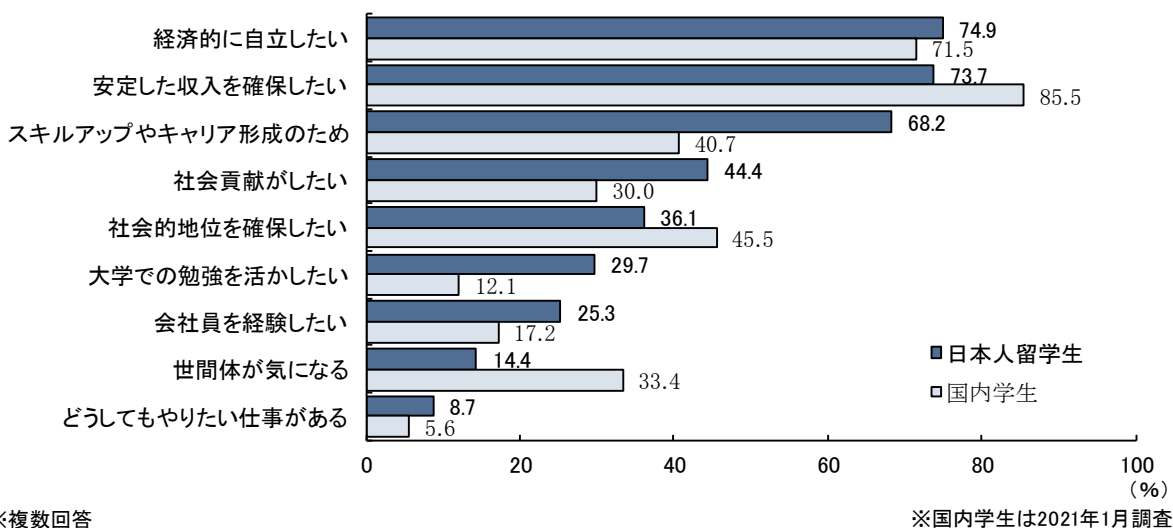
現在の英語力



2. 就職したい理由

就職したい理由を尋ね、国内学生と比較した。留学生は「経済的に自立したい」「安定した収入を確保したい」「スキルアップやキャリア形成のため」の順で高い。「スキルアップやキャリア形成のため」「社会貢献がしたい」「大学の勉強を活かしたい」が国内学生を大幅に上回る。一方、国内学生の 1 位は「安定した収入を確保したい」で、留学生よりさらにポイントが高いのが目立つ。その他に「社会的地位を確保したい」「世間体が気になる」が留学生を上回る。世間体や安定に重きを置く国内学生と、スキルアップや社会貢献を重視する留学生との意識の差が表れている。

就職したい理由



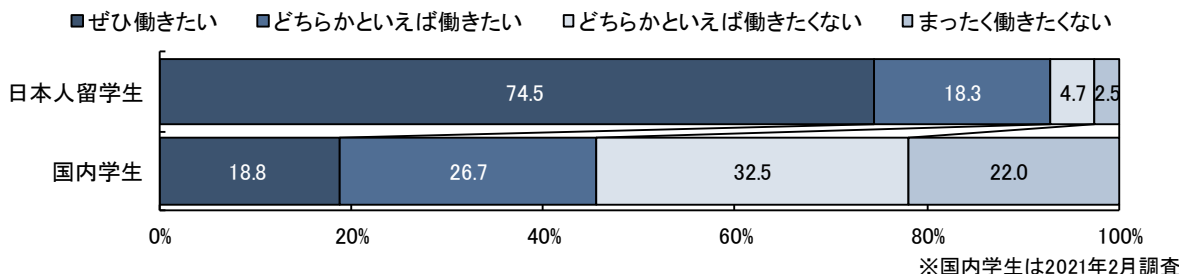
3. 海外での勤務希望と海外で働きたい理由

日本国外（海外）での勤務について希望を尋ね、留学生と比較した。留学生は「ぜひ働きたい」が 7 割強に上る (74.5%)。「どちらかといえば働きたい」(18.3%) も含めると 9 割を超え (計 92.8%)、海外勤務への意欲は極めて高い。一方、国内学生はそれぞれ 18.8%、26.7% で、海外勤務希望者は半数に満たない (計 45.5%)。

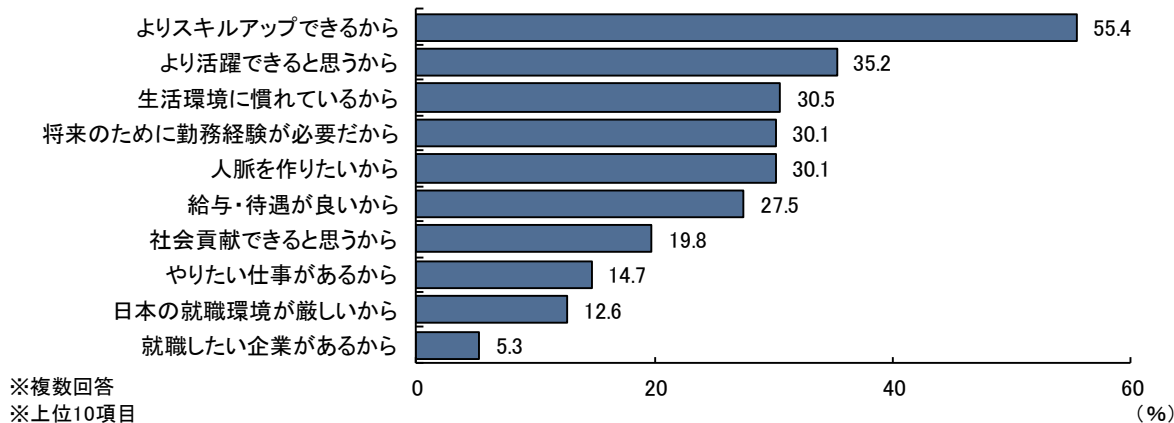
留学生が海外で働きたい理由を見ると、「よりスキルアップできるから」が 55.4% と突出して高い。他に「より活躍できる」や「人脈を作りたい」との回答も 3 割を超え、働くことをスキル獲得やキャリア形成の場と捉える傾向が強い様子がここにも表れている。

働いてみたい国や地域は、「北米」(66.0%)、「ヨーロッパ」(64.6%) が 6 割超に上り、留学先としてだけでなく、就業先としての人気も高い。一方で「東南アジア」が 4 割を超えており (42.6%)、経済成長国でキャリアを積みたいと考える留学生も少なくない。

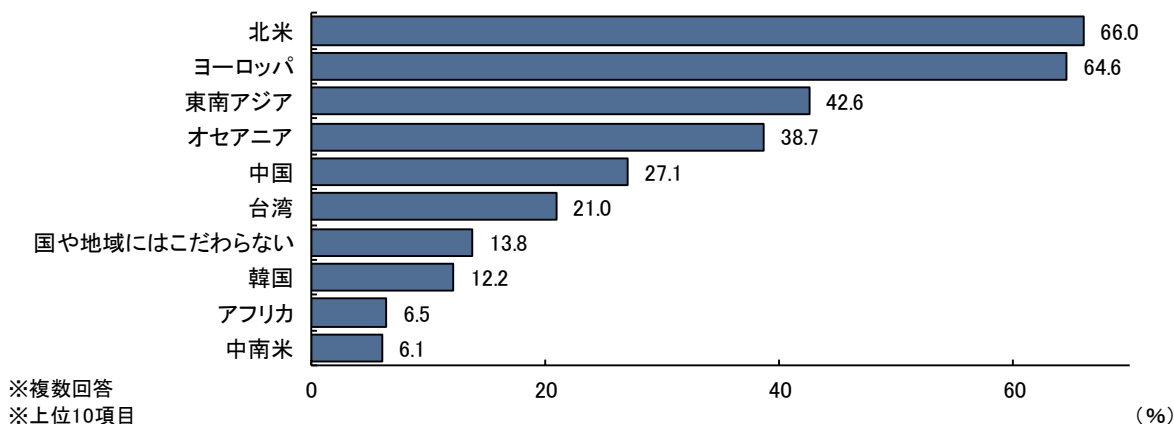
日本国外での勤務希望



日本国外で働きたい理由



将来の希望勤務国・地域



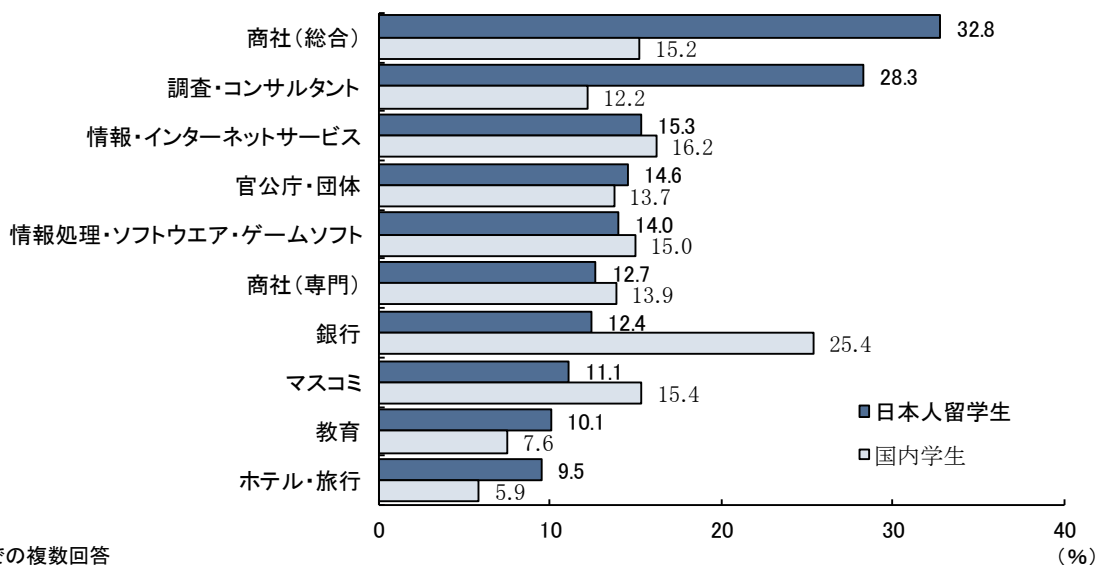
4. 志望業界

現時点での志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでもらい、文理ごとに集計した。

まず文系を見ると、留学生は「商社 (総合)」(32.8%) と「調査・コンサルタント」(28.3%) の 2 業界に人気が集中している。一方、国内学生は「銀行」(25.4%) のポイントが高いのが目立つ。

理系を見ると、留学生は「情報処理・ソフトウェア」(29.3%) が最多。ここに「医薬品・医療関連・化粧品」「調査・コンサルタント」が同率で続く (26.7%)。IT 業界のポイントが高いのは国内学生も同様だが、留学生は文系でも人気の「調査・コンサルタント」や「商社 (総合)」も高い。

志望業界【文系】

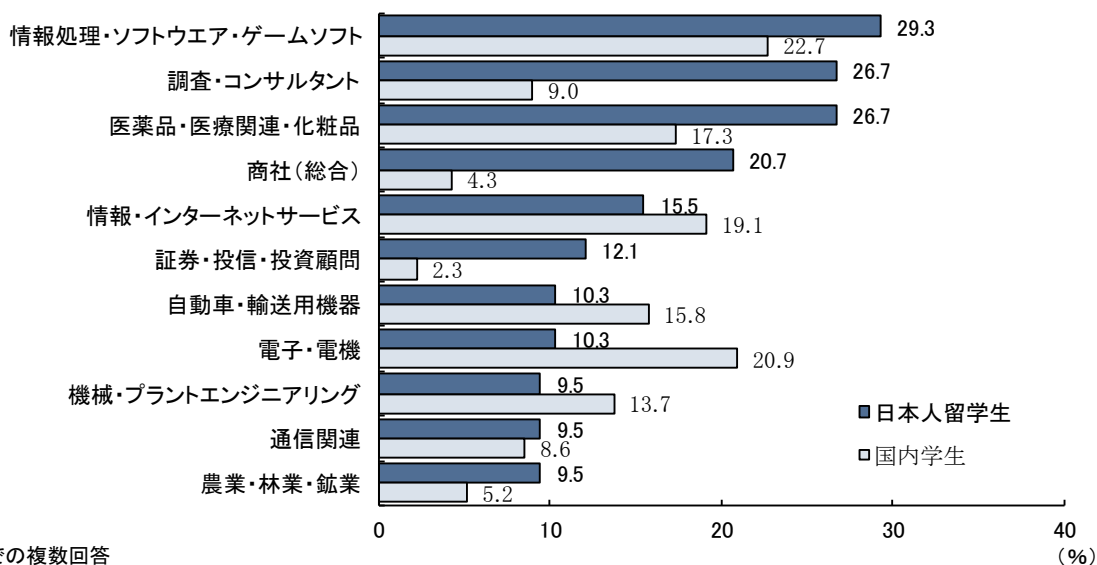


※5つまでの複数回答

※日本人留学生の上位10項目

※国内学生は2021年3月調査

志望業界【理系】



※5つまでの複数回答

※日本人留学生の上位10項目

※国内学生は2021年3月調査

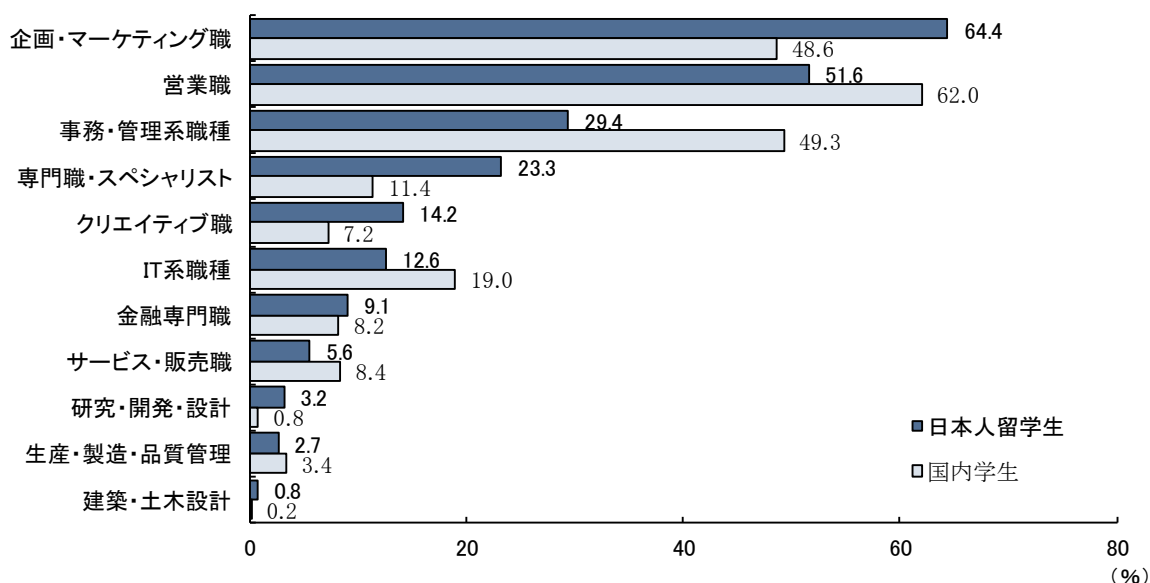
5. 志望職種

志望する職種を、11 職種から 3 つまで選んでもらった。

文系を見ると、留学生は「企画・マーケティング職」が 6 割強に上り（64.4%）、続く「営業職」（51.6%）の 2 職種に集中している。国内学生の半数近く（49.3%）が志望する「事務・管理系職種」は 3 割程度にとどまる（29.4%）。

理系では、留学生・国内学生ともに「IT 系職種」「研究・開発・設計」といった技術系職種の人気が高い。加えて、留学生では「専門職・スペシャリスト」や「企画・マーケティング職」が高く、国内学生では「生産・製造・品質管理」が高い。前ページで見た志望業界の違いが、志望職種の違いとしても表れている。

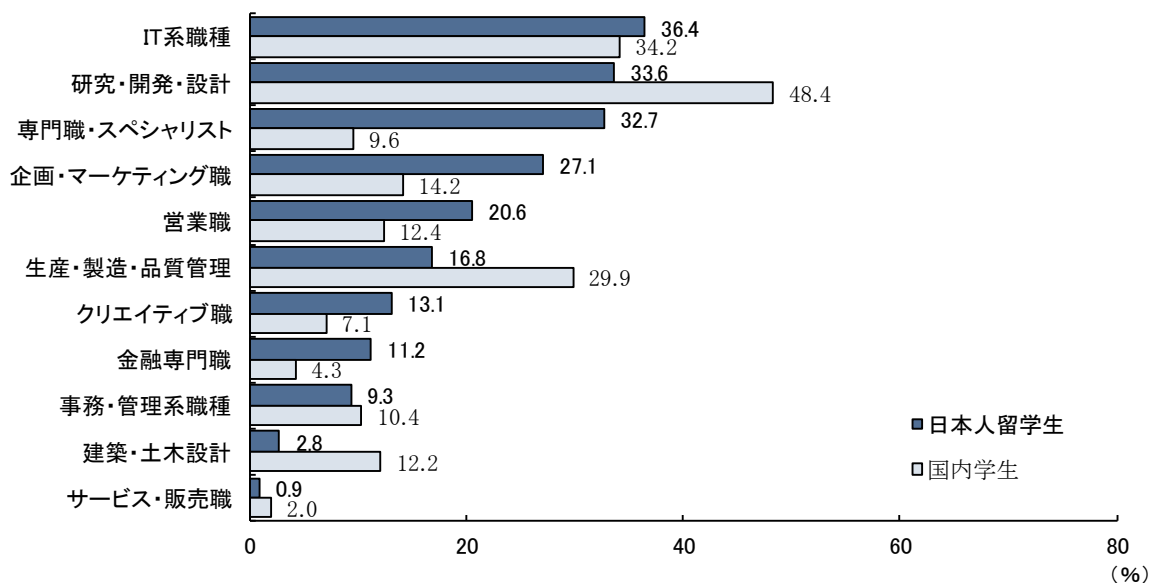
志望職種【文系】



※3つまでの複数回答

※国内学生は2021年3月調査

志望職種【理系】



※3つまでの複数回答

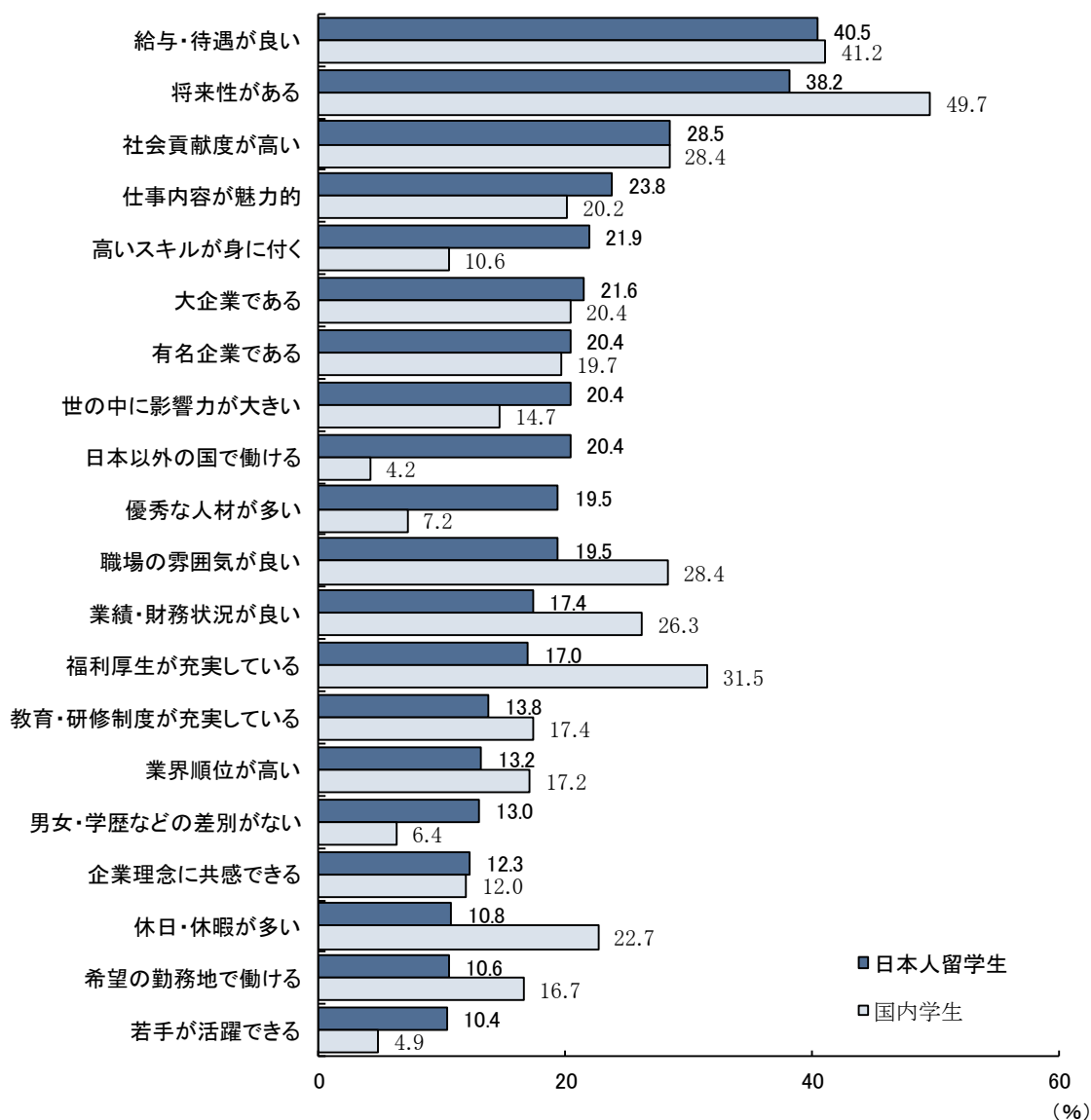
※国内学生は2021年3月調査

6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先企業を選ぶ際に重視する点を 30 項目から 5 つまで選んでもらい、国内学生と比較した。留学生・国内学生とも「給与・待遇が良い」「将来性がある」が上位 2 位に並び、留学経験にかかわらず、重視する学生が多い。

ただし、両者には違いも見られる。「高いスキルが身に付く」「日本以外の国で働ける」「優秀な人材が多い」といった項目は、留学生の方がポイントが圧倒的に高く、自身のスキルアップを重視する姿勢がうかがえる。反対に、国内学生の方が上回っているのは、「職場の雰囲気が良い」「業績・財務状況が良い」「福利厚生が充実している」「休日・休暇が多い」などの項目で、安心して働ける環境を求める学生が多いことがうかがえる。

就職先企業を選ぶ際に重視する点



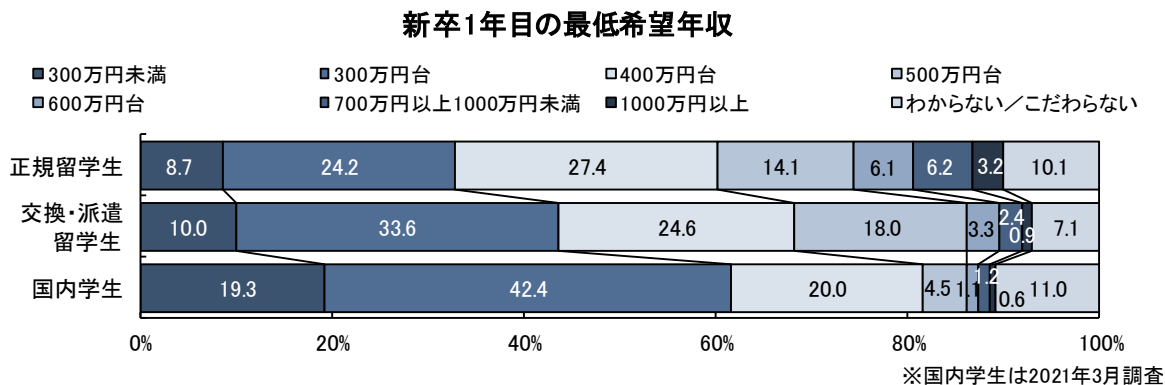
※5つまでの複数回答

※全30項目のうち日本人留学生の上位20項目

※国内学生は2021年1月調査

7. 新卒 1 年目の最低希望年収

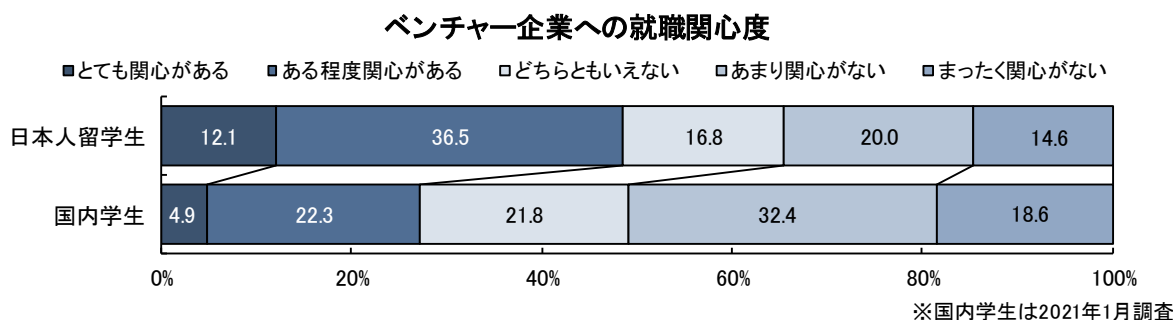
新卒 1 年目の年収として、最低このくらい欲しいという目安を尋ね、正規留学生、交換・派遣留学生、国内学生の 3 者で比較した。「300 万円未満」「300 万円台」を合わせると、正規留学生で約 3 割（計 32.9%）、交換・派遣留学生で 4 割強（計 43.6%）であるのに対し、国内学生では 6 割に上る（計 61.7%）。正規留学生では 600 万円以上の回答が計 15.5%に上るなど、留学生の方が相場観が高い。



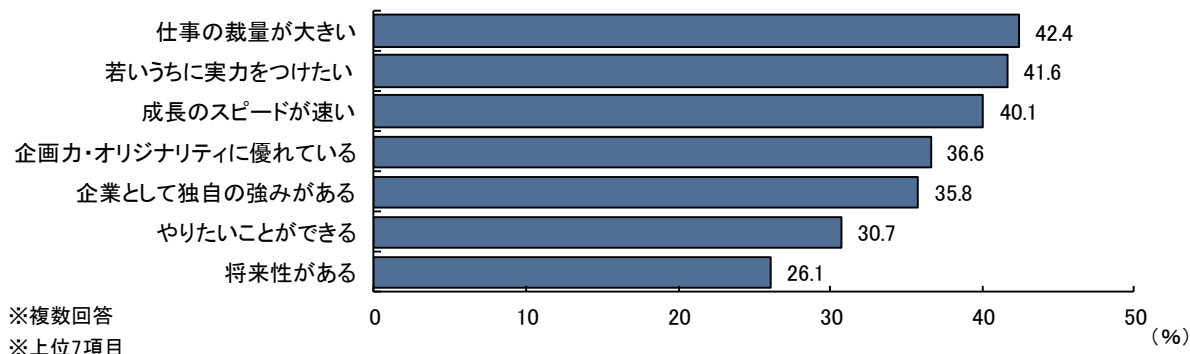
8. ベンチャー企業への関心

留学生と国内学生の双方にベンチャー企業への就職意向を尋ねた。留学生は「とても関心がある」（12.1%）、「ある程度関心がある」（36.5%）を合わせて半数近く（計 48.6%）がベンチャー企業への就職に関心があると回答した。これに対し、国内学生では 3 割にとどまる（計 27.2%）。

留学生がベンチャー企業に関心を持つ理由としては、「仕事の裁量が大きい」や「若いうちに実力をつけたい」、「成長のスピードが速い」など、個人の成長に繋がるような項目が上位に挙げられた。スキルアップや自身の成長に重きを置く留学生にとって、若手のうちから裁量権を持たせてもらえそうなベンチャー企業の環境は魅力的に映るようだ。

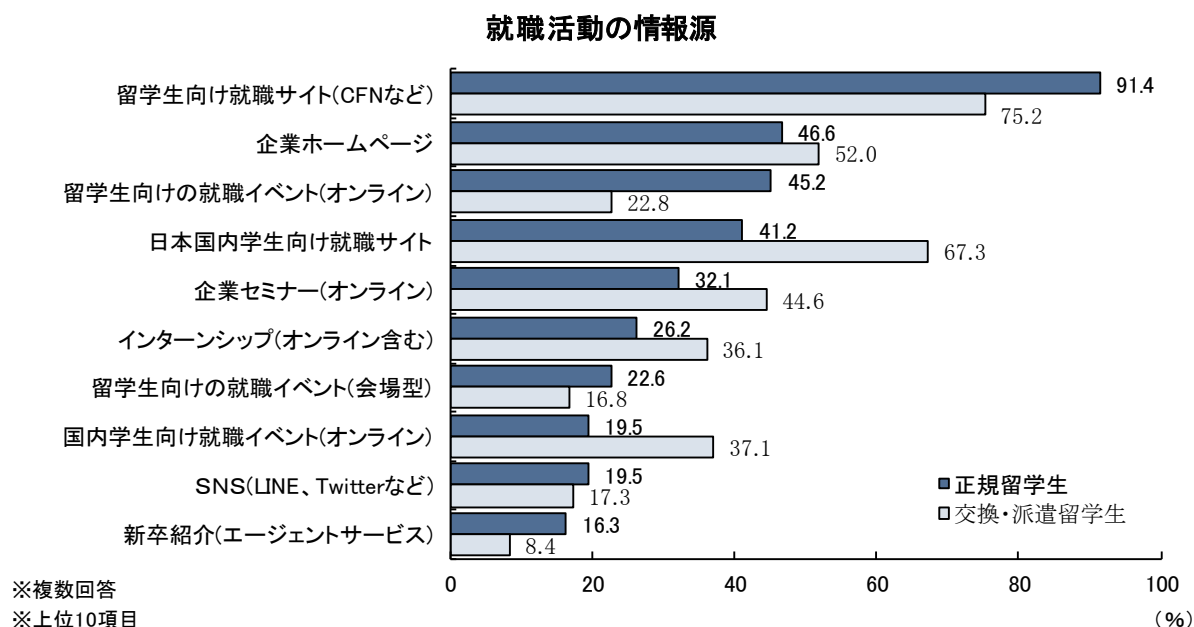


ベンチャー企業に関心を持っている理由



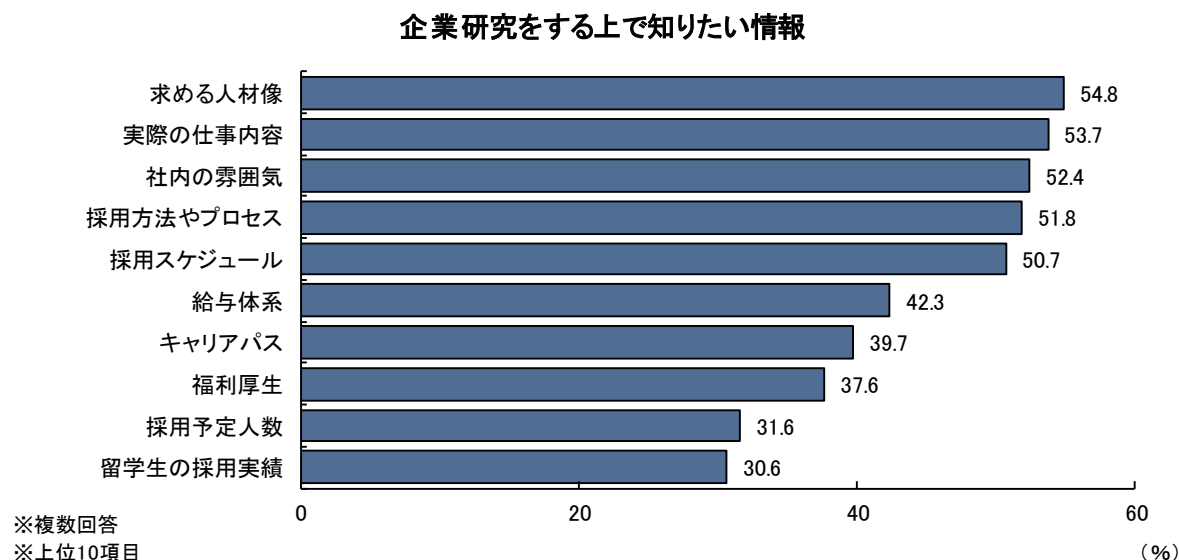
9. 就職活動の情報源

就職活動の情報源を尋ね、正規留学生と交換・派遣留学生とで比較した。正規留学生の情報収集は「留学生向け就職サイト」(91.4%)が突出して高く、「企業ホームページ」(46.6%)、「留学生向けの就職イベント(オンライン)」(45.2%)が続く。交換・派遣留学生も「留学生向け就職サイト」(75.2%)が最多だが、「日本国内学生向け就職サイト」(67.3%)も7割近くが選んでおり、国内学生向け就職サービスも併せて活用する学生が多いことがわかる。



10. 企業研究をする上で知りたい情報

企業研究をする上で知りたい(知りたかった)情報について尋ねた。最も多いのは「求める人材像」(54.8%)。留学生としての強みを活かせるかどうかを確認したい学生も多いのだろう。次いで、「実際の仕事内容」(53.7%)、「社内の雰囲気」(52.4%)が僅差で続き、業務内容や働く環境について、より具体的な情報を求めていることがうかがえる。また、「採用方法やプロセス」(51.8%)、「採用スケジュール」(50.7%)も半数を超えており、留学生に特化した採用選考の有無や時期、プロセスなどについての関心も高いことが推測できる。留学生を採用したい企業には様々な角度からの情報発信が求められていると言える。

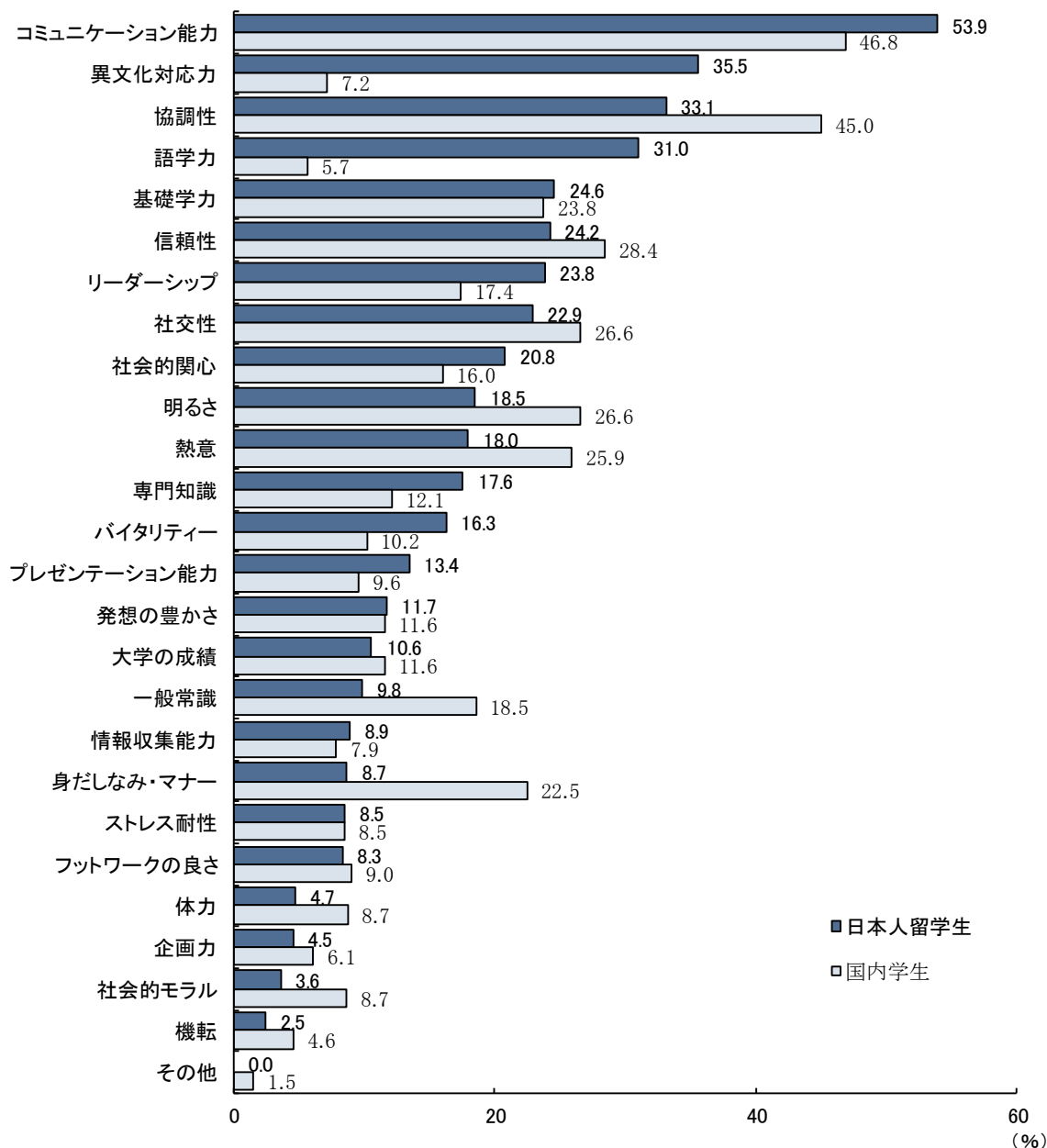


11. 企業に評価してもらいたいこと

採用選考にあたって企業に評価してもらいたいことを尋ね、国内学生と比較した。留学生・国内学生ともに「コミュニケーション能力」が最多だが、「異文化対応力」「語学力」「リーダーシップ」などは、国内学生と比べて留学生のポイントが高いのが目立つ。海外留学経験を通じて向上させた能力やスキルを評価してもらいたいと考える学生が多いことがうかがえる。

一方、国内学生は「協調性」「明るさ」「熱意」などのポイントが留学生よりも高く、自身が持つ素質や会社に対する想いを評価してもらいたい学生が多いようだ。

企業に評価してもらいたいこと



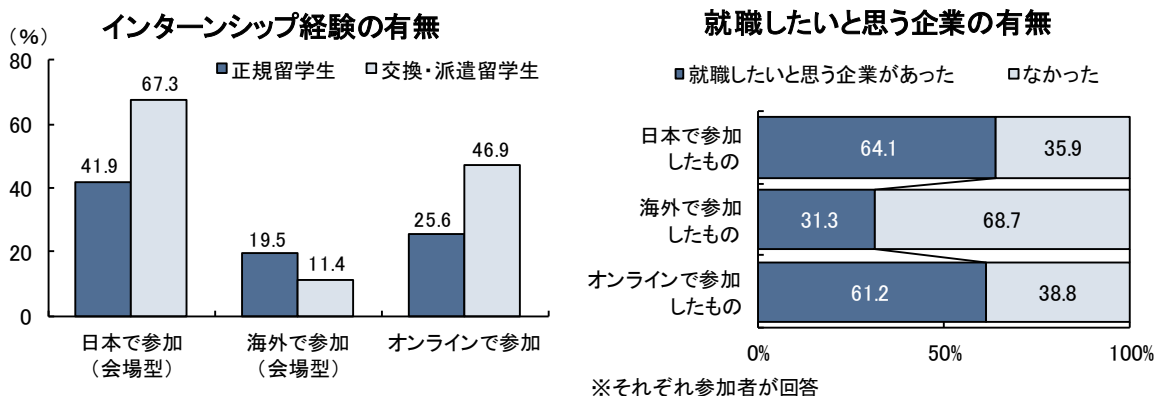
※5つまでの複数回答

※国内学生は2021年3月調査

12. インターンシップの経験

インターンシップの経験を、就業場所ごとに尋ねた。正規留学生、交換・派遣留学生ともに、日本国内での参加が最多。特に交換・派遣留学生の参加率が高く、7 割近くに上る（67.3%）。留学前に参加していた学生も多いのだろう。

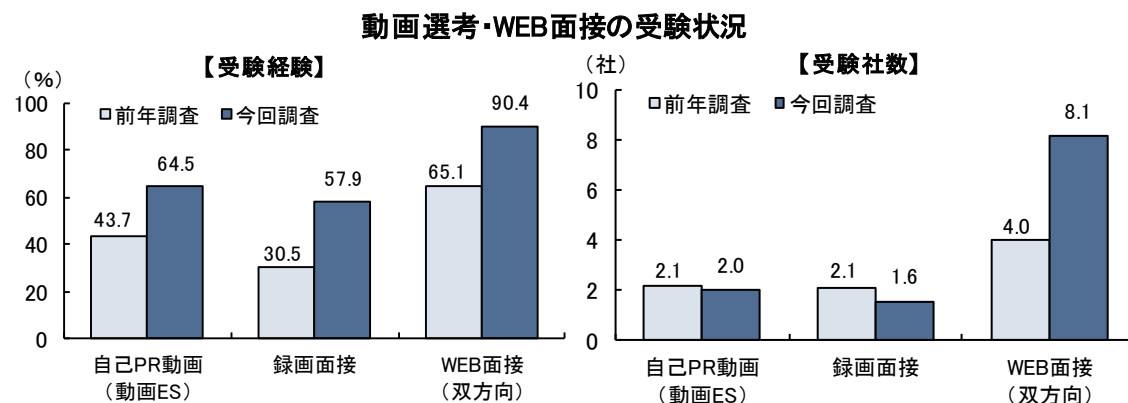
インターンシップ参加企業のうち、就職したいと思う企業があったかを重ねて尋ねた。「日本で参加したもの」「オンラインで参加」で、それぞれ 6 割を超える（64.1%、61.2%）。インターンシップの参加をきっかけに就職先として志望する学生も少なくないことがわかる。



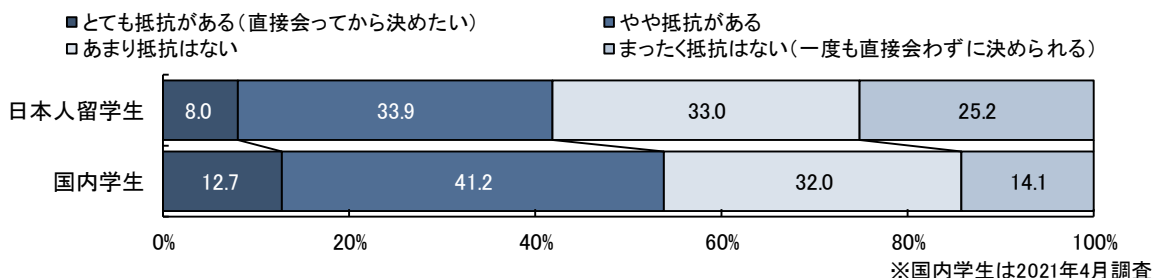
13. 動画選考・WEB 面接の受験状況

動画選考や WEB 面接の経験を尋ねた。最も経験率が高いのは「WEB 面接」で 9 割に上る（90.4%）。前年同期調査より大幅に増加した（25.3 ポイント増）。「自己 PR 動画」「録画面接」の経験率も、それぞれ前年から 20 ポイント以上増加。留学中に遠隔で選考を進めるために、従来オンラインが活用されていたが、コロナ禍でさらに増加し、オンラインが主流となったことが表れている。

オンライン中心の就職活動により、企業側と対面での接点を持たないまま内定が出た場合、入社を決断することに「抵抗がある」は約 4 割（計 41.9%）。国内学生（計 53.9%）と比較すると、留学生の方が抵抗感は薄いようだ。



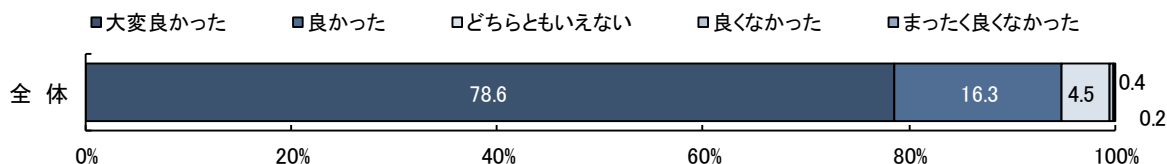
オンラインのみの選考で入社を決断することへの抵抗感



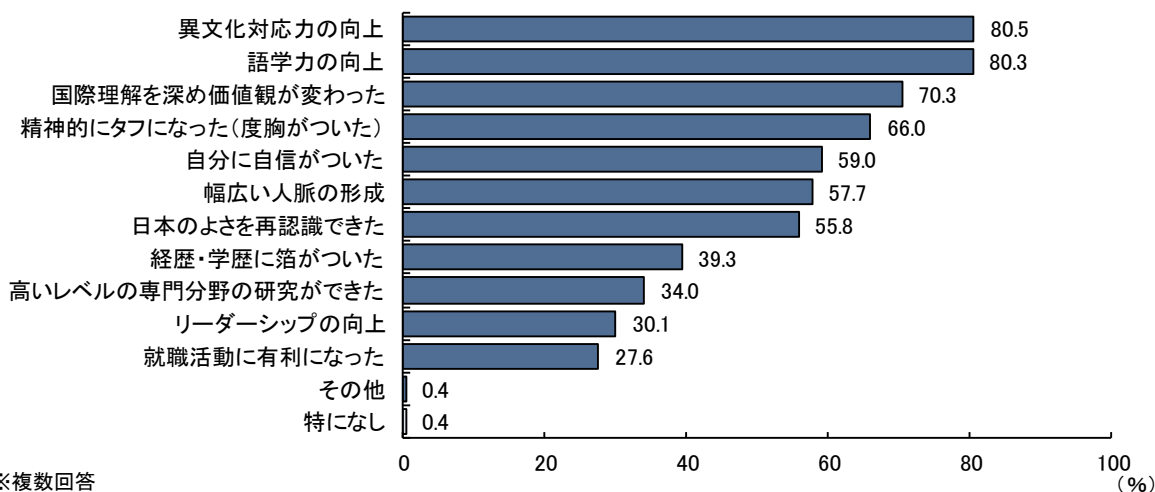
14. 留学をした感想

留学全般についての感想を尋ねた。「大変良かった」が 8 割近くに上り (78.6%)、「良かった」(16.3%) を合わせると 94.9% で、満足度は極めて高い。留学の成果としては、「異文化対応力の向上」(80.5%)、「語学力の向上」(80.3%)、「国際理解を深め価値観が変わった」(70.3%) の順に高い。異なる言語・文化・生活への理解や対応力が養われた様子がうかがえる。留学を通じて培った能力は、将来グローバル人材としての活躍する上で、大きなアドバンテージになるだろう。

留学した感想



留学したことのメリット

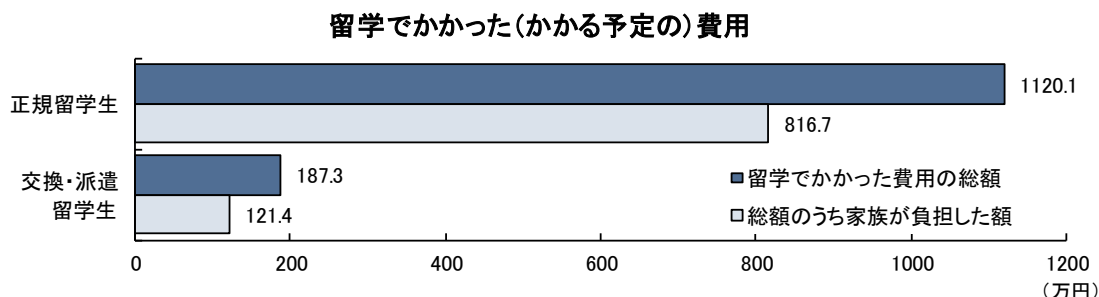


■留学して良かったこと

- さまざまな人種や背景の異なる学生との交流により、多角的に物事を考えられるようになった。またコミュニケーション力が向上した。 <正規留学>
- コンフォートゾーンから出ることで自身の精神の成長に繋がり、度胸がついた。自分に自信がない人生だったが、自信を持つことができるようになった。 <正規留学>
- 日本とは違う、分野横断的な学びをすることができた。全世界から集まった考え方が違う人たちと生活することで、日本の常識が常識でないことに気づいた。 <正規留学>
- 日本の良さや改善点が客観的に見られるようになり、日本社会に貢献したい気持ちが、より高まった。 <正規留学>
- 日本の学校では経験できないであろうレベルの授業を受けることで、体力や課題処理の力は飛躍的に向上した。 <交換・派遣留学>
- 世界各国から集まった留学生とともに、自分の専攻分野について語り合えたことがとても面白く、さまざまな視点を持って物事を見ることの大切さを学びました。 <交換・派遣留学>
- 語学力の習得、外国語での専門知識の習得、異文化への適応といった点において成功体験を積めたことが、人生の糧になっている。 <交換・派遣留学>

【参考】留学費用

留学費用について、実際にかかった額と、そのうち家族が負担した額を尋ねた。正規留学生の費用の総額は平均 1,120.1 万円で、留学期間が比較的短い交換・派遣留学生（187.3 万円）の約 6 倍に上る。また、留学形態に関わらず費用の多くを家族に頼っており、正規留学生で 7 割超、交換留学生で 6 割超を家族が負担している。



■留学中の就職活動で苦労したこと

- 日本での就職活動において、日本の学生より圧倒的に情報量が少ないので、その点は非常に不利だと感じる。 <正規留学>
- 日本企業の説明会やインターンシップに参加できる機会が、日本国内の就活生に比べて限られること。出遅れてしまったのではないかと不安があったこと。 <正規留学>
- 先輩が少ないので、就職の相談をする人がいなかったことです。 <正規留学>
- 卒業に必要な単位を取りつつ、ゼミに参加し、同時に就活するのは大変だった。 <交換・派遣留学>
- 日本のスケジュールに合わせた就職活動が大変。 <交換・派遣留学>
- オンラインの就活を進めていた際、時差で参加できない説明会があり、残念だと感じたことがありました。 <交換・派遣留学>

■留学によるキャリア観への影響

- 留学したからこそやりたいことができ、それを実現する道を見つけられた。 <正規留学>
- アメリカに留学したおかげで日本の良さや課題を客観的に見られるようになった。その結果、日本のために働きたいと考え、日本企業への就職をメインにすることにした。 <正規留学>
- 日本にいる時は自信がなかったが、今では制限をかけることなくハードルの高い仕事にも挑戦してみたいと思える。 <正規留学>
- ネームバリューではなく、自分のやりたい事や興味のある職種を軸に仕事を選ぶようになりました。 <正規留学>
- 考えが外資系企業寄りになった。つまり日本的な会社にカルチャーフィットしづらくなった。 <正規留学>
- ガチガチの年功序列制企業に魅力を感じなくなりました。 <正規留学>
- 留学先で働きたいと思っていたが、実際住んでみて、そう思わなくなった。 <正規留学>
- 海外駐在のチャンスがある企業に就職したいと感じた。 <交換・派遣留学>
- 多様なバックグラウンドを持つ人と働いてみたいと思うようになった。 <交換・派遣留学>
- 50 代になっても新しいキャリアを築こうとするクラスメイトを見て、一つの企業に一生勤めるのではなく、自由なキャリア形成をしてもいいのだと気づいた。 <交換・派遣留学>